(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年12月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673600104
法人名	社会福祉法人 市比野福祉会
事業所名	グループホーム きままの郷
所在地	鹿児島県薩摩川内市樋脇町市比野3244番地1 (電話) 0996-38-2700
自己評価作成日	令和6年6月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様がそれぞれ自分の望む生活を実現できるよう手助けしたいと考え、援助しています。
ご家族に普段の生活を知って頂くため、毎月写真入りで日頃の様子を手紙に書き送っています。
行事の際には案内状を差し上げ、できるだけご家族にも参加していただき家族のふれあいを大切にいただいています。(コロナ感染拡大防止のため家族への面会や施設内への立ち入りはご遠慮いただいています)寄り添う介護を心がけています。『スタッフが行う作業は手早く行うこと、利用者と一緒に作業はゆっくりと。』

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、母体法人や協力医療機関に近い静かな住宅地に建てられている。2ヶ所の協力医療機関とは緊急時を含めた24時間の医療連携体制が整っており、定期的往診及び週1回の訪問看護師の健康チェックも行われ、利用者・家族の安心に繋がっている。また、家族の意向に沿って看取り介護にも取り組んでいる。
- ・コロナ等の感染予防のため居室面会等は制限しているが、玄関での面会を再開した他、毎月の写真付き近況報告や2ヶ月毎に「郷便り」を送付する等、家族との関係が途切れないように積極的に取り組んでいる。
- ・自治会に加入し、自治会の清掃活動・避難訓練への参加や事業所発行の「郷便り」回覧を通して地域との交流及び事業所への理解を得られるよう取り組んでおり、サマーボランティア受け入れも再開している。
- ・介護への専念と職員の負担軽減を図る為に、複数の調理担当員を配置する等、職場環境づくりへの取り組みとともに、研修・資格取得を支援し職員の質向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域との交流を目指した理念を掲げています。毎朝の申し送り時に勤務者全員で斉唱。食堂の目に付くところにも掲示し、実現できるよう職員同士の話題にしています。	理念を事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載している。毎朝の唱和で意識付けして実践に繋げ、毎月職員会議時にケアを振り返り、年末には事業所目標の達成度を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しています。年2回の清掃活動には、新型コロナウイルス感染対策に注意しながら参加しました。	自治会の清掃活動への参加や事業所の「郷便り」の回覧を通して、地域の一員としての理解を得ている。地域に開かれた事業所として、高校生のサマーボランティアや中学生の職場体験受け入れを再開している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の席で、入所者様の利用状況や活動について説明しています。委員である自治会長を通じて、地域の皆様にも伝達して頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果は全職員で共有し、今後のケアに行かせるよう話し合っています。話し合った結果は運営推進会議でも報告し、委員の皆さんに意見を頂いています。	2ヶ月に1回会議を実施し、事業所の状況報告と意見交換を行ない、外部評価についても報告している。事業所の取り組みについての意見や災害対策への助言をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	更新や変更申請のため窓口を訪ねます。事故発生時には報告書類を提出し、電話でも相談にのってもらっています。	支所の職員とは顔なじみであり、日頃から気軽に窓口に出向いて連携を図っており、報告等の必要時は本庁にも出向いている。市主催の研修会は受講している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	無断外出が心配される入所者様がおられるため玄関の施錠を行っています。施錠していることはご家族に帆お知らせしてあります。身体拘束はありません。毎月の身体拘束委員会も行っていきます。身体拘束についての勉強会を年2回行っていきます。	指針を作成し、委員会を2ヶ月に1回、研修会は年2回行っている。スピーチロックに気づいた時は管理者から注意を促し、会議でも取り上げている。夕暮れ時に利用者の状況で玄関の施錠をすることがあるが、外に出たい利用者には傾聴や散歩に同行する等で対応し、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会には参加し、全職員で共有するようにしています。施設内での虐待は絶対にあってはならないものと職員全員で認識しています。万が一虐待があった場合、すぐに気付くよう利用者一人一人の観察を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年間行事の研修計画に予定しており、勉強会で学習しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時には時間をかけて重要事項の説明を行い、家族に持ち帰ってもらって再度読んでもらいます。そのうえで不明な点や気になることを質問して頂き、十分納得されてから記名・捺印して頂きます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に2回行事に合わせて家族会を開催し、ご家族からの意見や要望を聞くようにしています。コロナ感染防止のため家族会を自粛していますが、家族会の時期に合わせて資料を送り、ご家族の皆様の見解を頂くようにしています。	利用者には日常の関わりの中で要望を把握している。家族には、年2回のアンケートや電話・面会時に要望を聞き対応に努めており、家族の要望を受けて玄関内での対面による面会を再開している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の職員会議では、職員が自分の意見や要望を自由に発言しています。出された意見は改善できるよう皆で話し合っています。日頃から、気軽に意見が言えるような関係を築いています。	日頃の業務の中や毎月の職員会議で職員の意見等を聞いている。出された提案等をケアの統一や業務改善に反映できるように取り組んでいる。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が必要な資格を取得できるよう励ましています。経験年数の長い職員から順次介護福祉士資格の取得を促し、全職員が有資格者になるよう配慮されています。職員個々の仕事内容を観察し、優れているところを評価し、努力を認めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職時の苑内研修、ズームも利用して外部の研修にもできるだけ出席するようにしています。学習したことは職員会議で報告、全職員で共有しています。資料はファイルし、いつでも閲覧できるようにしてあります。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内や協力施設との定期的な交流を持つことにより情報交換を行っています。グループホーム協議会に加入しており、必要に応じて市内のグループホームに相談したり連絡を取り合っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人やご家族と面談を行うことにより、信頼関係を築くようにしています。また、施設見学に来ていただき利用者や職員との顔合わせを行うことにより、安心して入所して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に面談を行うと同時に家族との面談も行っています。ご家族が施設に望んでいることをお聞きするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族が困っていること、不安に思っていること、状況を確認して、改善に向けての話し合いの場を設けています。必要に応じて入所前のケアマネジャーや在宅介護支援センターにも相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴を知り、得意分野を大いに発揮して生きがいを持って生活して頂けるよう配慮しています。野菜の育て方や季節の行事（そば打ち、梅干し・らっきょう漬け等）教えて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日頃の利用者の様子を口頭や文書で報告し、家族と情報を共有できていると思います。身体的・精神的変化があった場合には、可能な限り家族に面会をお願いし（または電話連絡により）一緒に対応を考えるようにしています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ここ数年、新型コロナの影響で外出が禁止されていて支援できない状況です。解除になれば従来通り外出等支援します。</p>	<p>家族との対面面会を再開し、手紙・電話での交流と共に支援している。事業所からは毎月写真と近況報告や2ヶ月毎に「郷便り」を送付し、家族との関係が途切れないように取り組んでいる。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事やお茶の時間は職員も一緒に会話しながら心身の状態、気分、感情の変化など注意深く観察し見守っています。利用者同士の関係を考慮しての席も配慮しています。気の合う入所者同士で部屋の行き来もされています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設への入所、入院のため利用が終了した利用者に対して、機会を見つけて面会に行き関係が途切れないようにしています。ご家族に会った時には利用者の様子を伺い、継続的なかかわりを持っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、暮らし方の希望や本心を話していただけるよう努めています。一人一人の思い出や希望に関心を持ち、ケアプランとして検討している。	自分から話しかけて来る利用者もあり、日常会話で本人の思いを把握できるように努めている。言葉の表出等が困難な場合は、家族や入居前の利用サービス事業者からの情報を参考に、表情や仕草等で推測し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで聞くようにしています。入所後もご家族や知人の面会時に少しずつ把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズム（起床・食事・排泄・入浴・就寝等）について把握し、個々に合った声掛けを心がけています。できることを見つけて働きかけるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすため、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、会議等で話し合っている。利用者やご家族からは日頃の関わりの中で思いや意見を聞き計画に反映させています。	電話や面会時に家族の希望を聞いており、部屋担当職員やその他の職員に日常業務の中で本人から聞いた意見を合わせて介護計画を作成している。毎日のケアチェックと毎月及び3ヶ月毎にモニタリングを実施し計画を見直している。状況変化時にも現状に合った介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状況を記録するファイルと人体状況を記録するファイルを個別に準備し、利用者個々の様子を具体的に記載しています。月末には担当職員を中心にケアプランの評価を行い、見直しの参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて通院や介助し、ここの満足度を高めるよう努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前に利用されていたサービス事業者から聞き取りをしたり、在宅のケアマネや面会者から情報収集を行い、生活に生かせるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に本人やご家族と話し合い、了解が得られれば協力病院をかかりつけ医にしてもらっています。他の医療機関を希望される場合は家族同行をお願いしたり看護師が同行しています。急を要する場合も看護師が同行しています。	契約時に確認し、全員協力医療機関の往診を受けている。週1回の訪問看護師の健康チェックや24時間の医療連携、歯科往診により適切な医療を受けられるよう支援している。他科受診は家族の協力も得て職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員(管理者)が常駐しています。介護職員による日々の記録や状態変化の報告により必要な対応をとっています。週1回訪問する訪問看護師とは気軽に相談できる関係ができています。月に1回は医師による往診もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に本人に関する支援方法についての情報を提供しています。洗濯物を取りに行くことを理由に毎日面会に行き病状の把握を行うとともに、早期退院に向けて主治医・看護職員・ご家族との話し合いを頻回に行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に、希望されれば終末期まで介護することを説明してあります。状態変化があったときには主治医の意見を参考にしながら本人・ご家族の希望を尊重した支援を行っています。必要に応じ訪問看護の利用を行い、ご家族との連絡も密に行っています。	契約時に指針で重度化等の場合の対応について看取りも含めて説明し、同意書をもらっている。特別養護老人ホームの説明は入居後の必要時に行っている。重度化等の場合、医師から家族に病状を説明し、家族の意向を確認して支援に取り組んでおり、看取り介護の事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時マニュアルを準備してあります。職員全員が普通救命講習を受講、また勉強会にも参加しています。感染症対策については協力病院から指導があり、その都度実演しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災や土砂災害を想定した避難訓練には消防署から来ていただき指導を受けています。コロナ感染前には地域の方の参加も呼びかけ、実際に避難誘導もお願いしていました。声を掛ければ協力して頂ける体制ができています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何事にも利用者ファーストの気持ちを心がけ、利用者様ひとりひとりの人格等を尊重した声掛けを心がけています。	個々の利用者に応じた声掛け・言葉遣い等を研修している。さん付けで呼びかけ、排泄介助は周囲にわからないよう羞恥心に配慮して対応、希望での同性介助等、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意見を押し付けるのではなく、利用本人が自分の意思を主張できるよう働きかけています。その日着る服を選ぶ、外出の希望等。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のいたい場所、したいことができるよう自由に過ごしていただいています。レクレーションも利用者の希望を聞くようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の好みを大切に、気に入った服を着てもらおうようにしています。外出や行事の際にはおめかししています。爪切りや整髪を心がけています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりに応じた食事を提供しています。(ミキサー、刻み食等) 本来は入所者様と一緒に食事の準備や片づけをすべきですが、感染対策のためテーブル拭きや下膳を手伝ってもらっています。	利用者の希望を聞いて献立を作成し、ミキサー食等の個々に応じた食事形態で提供している。利用者と職員と一緒にテーブル拭きや食事・下膳を行っている。季節の行事食や誕生日のケーキ等を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録しています。個々の利用者の状況に応じて量や形態を調整しています。入浴後や外気浴後なども水分補給を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行うよう声掛けしています。自分でできない利用者には、必要性を説明して必要な介助を行っています。週2回は義歯をポリドント洗浄しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを踏まえて、時間を見計らったのトイレ誘導しています。車椅子自走してトイレに行かれる際は、傾合いを見て介助を行っています。ウォシュレットを使用し清潔が保てるようにしています。	個々の排泄パターンに応じた声掛けで、日中は自室でのポータブルトイレ使用を含めトイレでの排泄を基本に支援しており、数名は布パンツ使用を維持している。夜間は、睡眠確保や転倒防止のためポータブルトイレやオムツを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や水分摂取の勧め、DVD視聴による体操等体を動かすことにより自然排便促しています。トイレでのウォシュレット使用、腹部マッサージも実行しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	できるだけ利用者の希望される順番や時間に合わせて入浴して頂いています。体調の悪いときには清拭や足浴で対応します。温泉、個浴、一人ずつお湯を交換しています。	隔日の午前中に温泉での入浴を支援しており、シャワー浴と浴槽利用が半々である。希望で同性介助にも対応し、1人ずつ湯を替えて楽しんでいる。嫌がる場合も声掛けの工夫で入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外気浴やレクレーションへの参加を促すことにより、日中の生活リズムを活性化させ安眠の支援を行っています。眠くなるまで職員と一緒に過ごして頂きます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が服用する薬の目的や副作用について把握しており、きちんと服用できるよう手渡しして、確実に服用できるよう見守っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の役割や出番を見出し、活動の場面を作り出しています。(配膳・下膳・洗濯物干しとたたみ・園芸等)梅干しやそばつくり等、経験や知恵を発揮してもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ感染のため外出行事を控えています。状況が変わり自由に外出できるようになったら、本人の希望を聞きながらの外出支援をしたいと考えています。</p>	<p>天候の良い日は庭の散歩やテラス・中庭で外気浴・日光浴をしている。年間計画を作成し、初詣や花見に出かけ、受診時やその日の状況でドライブもしている。個別支援を含め、できるだけ戸外に出かけられるよう取り組む計画である。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理の可能な利用者には財布を持ってもらっています。職員に必要な買い物を頼まれることもあります。自分での買い物希望は今のところありません。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>居室や食堂で自由に電話を掛けたり受けたりしてもらっています。ご家族からの手紙やはがきはすぐに本人に渡しています。携帯電話でご家族と連絡を取られる利用者もおられますが、必要に応じて援助します。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>中庭には季節の花や野菜を一緒に植え、時期の花や野菜の収穫を楽しんでいます。レクの時間には四季を感じられる作品を作り展示、皆で鑑賞しています。空調は細かにチェックし温度、湿度、各自に適した環境を提供しています。</p>	<p>食堂・リビングは空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境に保ち、換気は窓を開けて十分行っている。季節の飾りつけをした室内には、車いすの動線確保のためソファは置かず、利用者が自由にくつろげるよう廊下やテラスにベンチを置いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂の決まった自分の席だけでなく、廊下やテラスのベンチなど思い思いの場所で過ごされています。仲の良い利用者同士で寛がれる姿が見られます。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>これまで使い慣れた家具、小物、いつも使用していたバッグ等を持ち込まれています。家族の写真飾られ、自分の居場所として過ごされています。</p>	<p>居室にはベッドやタンス・クローゼット・洗面台・エアコンが備えている。使い慣れたテーブルやリクライニングチェア・仏壇・テレビ等の家具を持ち込んだり、位牌や写真を身近に置いて安心して過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、浴室、廊下には転倒防止のための手すりが設置してあり、移動時に支えられます。歩行に不安のある利用者には歩行器を利用して頂いています。トイレのわからない利用者のため、廊下に手書きで表示しています。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない